

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービスもりのひろば松森園			
○保護者評価実施期間	2026年2月13日～2026年3月3日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	37名	(回答者数)	33名
○従業者評価実施期間	2026年2月13日～2026年3月3日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	13名	(回答者数)	12名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年3月13日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	手厚い職員配置により、お子さま一人ひとりに合わせた丁寧な個別支援ができること。	基準を満たした配置に加え、職員数を確保し、お子さま一人ひとりに目が行き届くようにしています。個別の関わりが必要なお子さまには、状態や特性に応じて丁寧に関わり、安心・安全を大切にしながら支援を行っています。	お子さまの人数やその日の状態に応じた職員配置や動き方について、今後も職員間で共有を深めながら、よりきめ細かな個別支援につなげていきます。
2	複数の部屋や中庭を活かし、活動や状態に応じた環境設定ができること。	複数の部屋や中庭を活用し、お子さまの人数や状態、活動内容に応じて空間を使い分けています。落ち着いて過ごす場面とのびのび活動する場を分けるなど、安心して過ごせる環境づくりを意識しています。	活動内容やお子さまの様子に応じて、より安全で過ごしやすい環境設定ができるよう、部屋の使い方や見守りのポイントを職員間で共有しながら工夫していきます。
3	園内の専門性と共生型の環境を活かし、多様な活動や関わりを通して幅広い支援ができること。	保育士、教員、作業療法士(OT)、児童指導員など、さまざまな資格や経験を持つ職員が在籍しており、それぞれの専門性を活かしながら支援を行っています。また、法人全体では理学療法士(PT)や看護師とも知識を共有し、お子さま一人ひとりを多面的に捉えながら、個々に合わせた支援につなげています。日々の活動では、音楽遊び、感覚遊び、ものづくり、クッキング、ソーシャルスキルトレーニング、季節の行事、外遊び、体を動かす活動など、さまざまな活動を取り入れています。さらに、共生型の環境の中で、おじいちゃん・おばあちゃんや保育園の子どもたちと自然にふれあう機会もあり、そうした交流を通して、社会性や思いやりを育むことにもつなげています。	今後も、園内の専門性に加え、法人全体の専門職との連携や共生型の環境を活かしながら、お子さま一人ひとりに合った支援や活動内容をさらに工夫し、より幅広い経験や人との関わりにつなげていきます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	支援内容や配慮点の共有・引継ぎにおいて、職員や状況によって認識に差が生じることがあること。	ミーティングや書面を通して、お子さまに合った支援内容や配慮点、個別の関わり方について共有していますが、職員間でより丁寧に共通理解を深めていく必要があると考えています。	ご家族に安心してご利用いただけるよう、今後も繰り返し確認や共有を行いながら、職員の育成に努めていきます。また、一人ひとりが安心して対応できるようになるまで、見守りや助言を行いながら、支援体制を整えていきます。
2	地域との交流や地域資源の活用が、まだ十分とはいえないこと。	共生型の環境の中での関わりや、法人全体での他園とのつながりはありますが、地域との交流や地域資源の活用については、まだ限定的な面があります。また、卒業生がこれまで1名のみであることから、就労や生活介護など将来の進路に向けた地域資源の知識や情報提供についても、今後さらに深めていく必要があると考えています。	今後は、さまざまな地域資源について理解を深め、ご家族に分かりやすく情報提供できるよう努めるとともに、お子さま一人ひとりの将来や進路を見通した助言ができるよう体制を整えていきます。
3	家族支援や情報提供、保護者同士のつながりづくりが、まだ十分とはいえないこと。	日々の相談対応や情報共有は行っていますが、保護者向けの学びの機会や交流の場については、まだ十分とはいえない状況があります。	今後は、保護者の皆さまがどのような悩みや不安を抱えているのかを丁寧に把握し、安心して子育てができるよう、相談対応に加えて、保護者同士のつながりづくりや、きょうだい支援、学びの場についても検討していきます。